

諸大家基督論



020763-000-5

25-195

諸大家基督論

タウンSEND/著

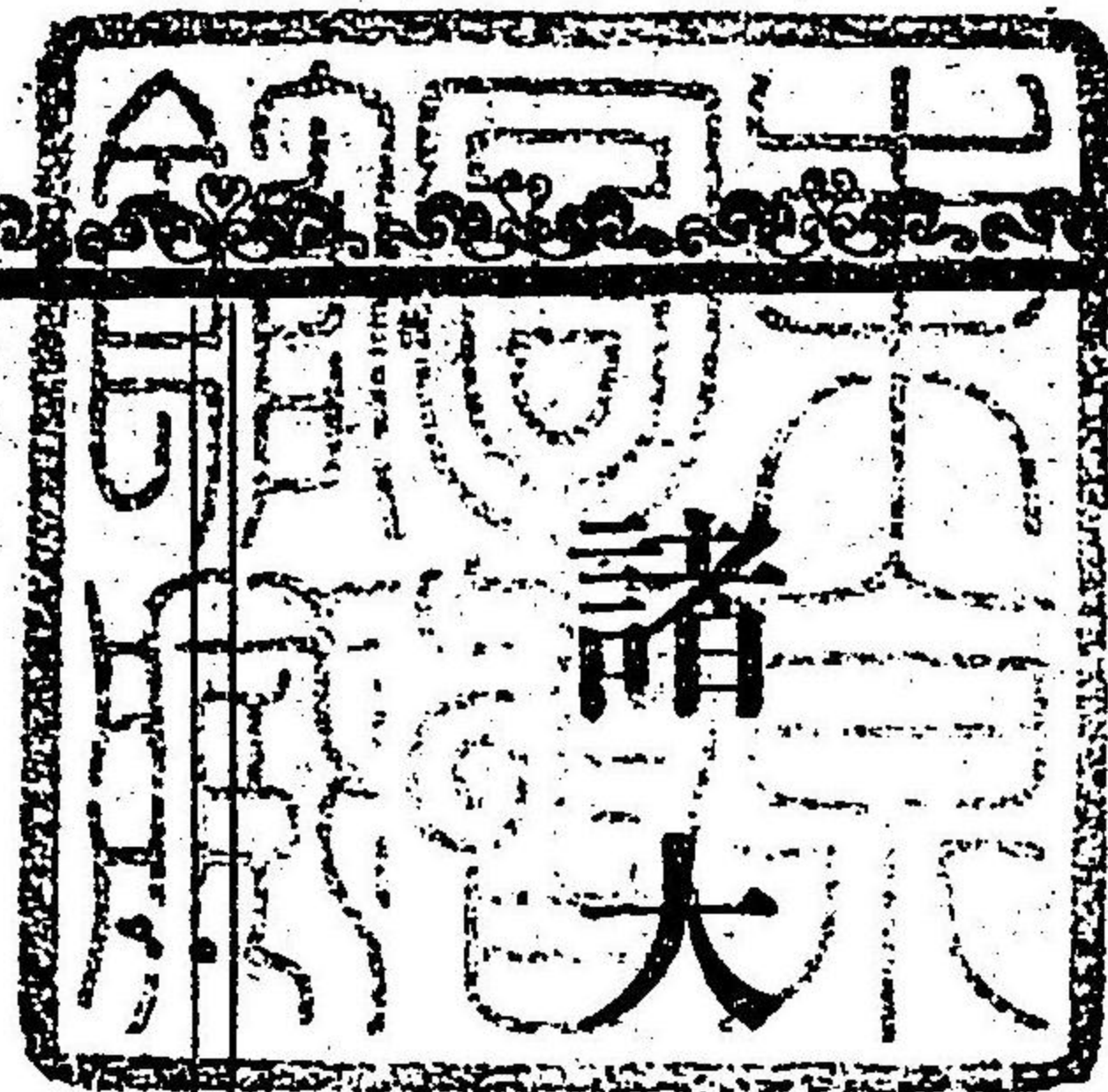
M21

ABI-0588





No 9577

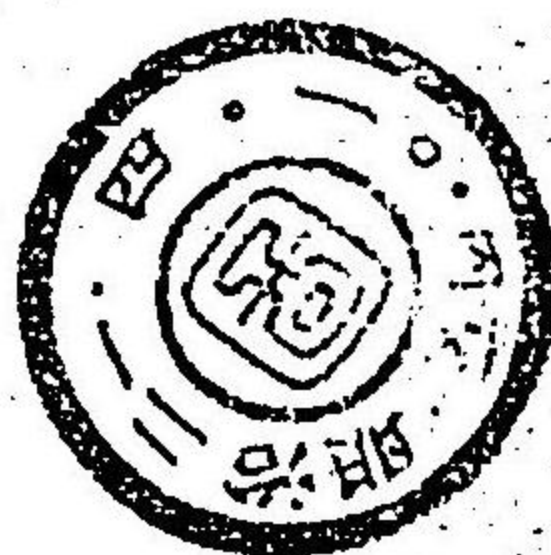


諸大

家基督論

完

明治二十一年四月



米國聖教書類會社印行



諸大家基督論

米國 タウンセンド 著

今日、英約の三十年の昔に非常なる一人傑の世に現はれたることは之と古への文學著書に照し且つ其の時代より一  
 大光輝赫々として四表に輝き且り當時を動かし後世にも  
 布き及せる構造力に振ひ起れる事實を徴し考ふれば疑ふ  
 べくもあらぬことなりとす又此の人傑は即ちエマヤのク  
 ナストなることは最も著明き事實にして今日如何なる不  
 信説といへども之を抗辨ふ程に無學よして忌み憚かる所  
 なきものはあらざるなり彼のフランスに名と知られたる  
 不信説家レナンハクリストの事を論じて曰く此れ人類の



爲に將來の信仰の目的と創造し其の起端去向を定めたるものなり

余ハ讀者とともに次第に世代と溯り或ひは大陸を經行してエルサレム城に至り其近傍の地方に徘徊して今日まで古代の歴史及び近世の文學上不朽の名を止めたる人々はクリストを如何に論じたるかクリストに關しては彼らの説はいづれの方角を取りしや等の事實を究察んと欲するなり

われら先づパウロの所見より説き起さんとす是は必らず不相应ことには非るべし蓋しパウロの未だ基督教に服はざるや最も熱心にユダヤの教法を信じ太く福音の道を惡

めり遮莫の才學文藝ハ時のユダヤ人に秀で且樞要き地位にも立てる人なりきわれら偏頗の意見なく之と見るときは其の氣宇古今に絶れたる一豪傑なること明らかなりとす

新約書のうちにて凡そ三の一ハパウロの所著に係るまかふして其の教旨は世界にすさまじき變革動亂のありしよも拘らず毫も勢力を殺がること無く愈久しふして愈人心を動かすの力と現せりパウロの思想辨論ハ精銳明晰深遠勁健富瞻にして變化固執の兩極を兼ねたり其のユダヤ人ビリビ人コロサイ人等に贈れる書翰ハ近代の文明國ふたいて有神論の骨髓たる所のものなり彼を思ひ之を察す



れば大いなる英傑にして基督教世界のプレートと稱するも取て溢美にあらざるなり  
 或ひは上文の所見をもて一家の私言なりと見做すものもやあらん故に余は先賢の議論を抄録して之を證せんと欲す  
 レガソ曰くパウロは稀有の智者にして稀有な富贍なる言辭をもて其の高尙なる思想といひ顯せるものなり  
 米國有名の學者チャニング曰くパウロの書翰と見るに論緒俄頃にして改まり文勢の氣脈卒かに斷ゆることあり且つ時に其意義の判然たらざることありといへども正純なる基督教を開説辨明するに至りては之を以て最も精を凝らし巧を極めたる論文に比ぶれを一層較著にして力ありといひざるを得ず

英國の哲學者にして且つ詩人の譽を取り世に萬能と稱へられたるコルリツチ曰く余思ふに聖徒パウロがパウロ人に贈れる書翰ハ天下の最も深遠なる著作なり  
 斯の如く名譽を世に博し得たるパウロは曾てキリストのことを熱心巨細に論述したることあり  
 今其の云ふところを見るにたゞ神にのみ屬すべき名稱行為および性質をクリストに附與してすこしも思むこと無きに似たり左の如きは中について其の著き言なり曰く福あるところのひとりの權威あるものもろくの王の王もろ



くの主の主(テモテ前六ノ十五)キリストハ萬物のうへにありて世榮光を得べき神なり(羅九ノ五)神肉體となりて現る(テモテ前三ノ十六)我らのみなクリストの臺前に立つべきものなり録して主のいひたまへるは我ハ活る神なりすべての膝は我が前に屈まりすべての舌は吾と讚美すべしとあるが如し(羅十四ノ十、十一)ピリピ二ノ十(クリストハ大いなる神即ちわれらの救主云々(提多二ノ十、十三)主は汝はじめに地の基を築く天も汝が手の工なり(希一ノ十)夫れ神の充ち足れる徳のことく形と爲してクリストに住めり(コロサイ二ノ九)彼は神のかたちにて居りしかども自らその神と均しくあるところのかたちを棄てがたきことと思は

す(ピリピ二ノ六)と

パウロまたクリストを指して舊約書のエホバなりといへり曰くわれらよかいていたゞひとり神即ち父あるのみ萬物これより生りわれら之に歸すまたひとり主(こゝに主といへるはエホバあり)耶穌基督あり萬物これに由りわれらも之に由り(哥前八ノ六)兄弟よわれ汝らが左の事を知らざるを好まず夫れわれらの先祖みな雲のしたに在りみな海をどほりみあ同じく靈の食物を食しみな同じく靈の飲物をのめり是かれらふいたがへる靈の岩より飲みたるなり其の岩はすなはちクリストなり(哥前十ノ一以下四)且つパウロの基督學に據れば昔一モウセの時彼の火よて



燃えざりける柴のうちの炎に伴へる聲、アブラハムが響應して  
また祈りせるところの不可思議の賓客ヤコブが之と角  
力で勝を取り君といへる名稱を得たる天使ダニエルのと  
きエホバの神ニ忠誠を盡し之がために炎々たる火爐のな  
かに投げ入れられたる三名の義人とともに火のうちに在  
りて王が其の容貌も神の子のごとしと宣へるもの、契約  
の天使、槽に生れたる嬰兒、人類のもれいへざる如くのもの  
いひ終に十字架のうへに死にたるもの、は是れ同一の存在  
者にして同じく神の子、クリスト即はち元始より存在して  
れはせし言なり而して其の奉じたる職は左無くしては見  
がたき父を人類に現顯すにありとす

之に加ふるにパウロハクリストをもて世の贖罪者罪のた  
めに獻げられたり犠牲と信じたるなり此事に關れるパ  
ウロの意見は明白にして紛ふべからず彼が書中救世の理  
につき活潑熱心なる所見多く散見して殆ど枚舉し遑あらら  
ざるなり次に擧る言詞の如きは他の意義と附會するも決  
して之を了解すべからざるものなり曰く  
其の恩の豊なるに由りて彼にあるところれ我儕其の血に  
より贖すなほち罪の赦を得るなり以弗所一ノ七  
羊や犢の血を用わず己が血ともて一たび聖所に入りて永  
遠き贖を成すことを得たり希九ノ十二  
夫れわれらの逾越即ちクリストハ既に宰られたまへり哥



前五ノ七

只クリストイエスの贖に頼て神の恩をうけ功なくて義とせらるゝなり神は忍びて已往の罪と寛容にしたまひしかど其の義をあらはさんとてイエスを立て挽回の祭物となせりすなほち其の血を信ずるものゝ挽回の祭物たるなり  
(羅三ノ二四、二五)

クリスト已にわれらのために証はるゝものとなりてわれちを贖ひ律法の呪ひより脱れしめたまへり(加拉太三ノ十三)  
祭司の長罪をあがなはんがために獸の血をたづさへて聖所に入り其のけものゝ体を營外にて焚けり此の故にイエ

スもおのれの血をもて民を清めんがために門のそとに苦を受しなり(希十三ノ十一、十二)

パウロハ三十年の間最も開明に進みたるより最も未開なるふ至るまで諸の邦國のうち文化の最も郁々平たるものより最も無智なるものに至るまですべての人民お交り或るときは身を萍氷に任せたるアラビヤの種族中よ或るときは小亞細亞の華麗なる地方にまた或る時ハスレースの黯兮荒蕪なる山嶺のあひだよ、時としてハ懷疑に流れ哲理に奔れるアテンス人、徳廢れ氣衰へ文弱の弊よ陥りたるカリント人また時としてハ金城湯地なるロウマイスパニヤに遊び或時ハまた貧窶迷信なるマルタれ島民のうちよ至



るまでも行くところとじてたのれがクリストにつきて信  
 認するところを主張公言せり  
 クリスト紀元の初代よあたり其の教會に入りたる人々か  
 よび古今を問はず凡てクリスト教の喜樂と感覺とを充分  
 に受け得たるもの是認したる意見また之より外ならざるな  
 り  
 自餘の使徒等の所見につきては余簡單に之を述るを得  
 べし譬へば中に就きてゼベダイの子ヨハ子の説を究察せ  
 んにおほより此の人の如く自己の經歷目撃に據りて正當  
 なるクリスト論を作るの好機會を有しものなかるべし何  
 となればヨハ子は人の許せる如くイエスの最も親密なる

朋友なれば獨り最も詳細なる見聞を專にしたるのみなら  
 ず其の識見活潑明敏普通なるをもて精細なる識別をなす  
 ぶ妙なりといはざると得ず  
 ギツホン云くヨハ子ハ四福音記者中最も高尚なるものな  
 りシエロウ云くヨハ子ハ一身にして使徒福音記者及び  
 預言者の講と兼ねたり即ち師父となりて諸の教會に書を  
 贈る是使徒にあらずや十二使徒中マタイのほかは福音の  
 書を著せるもれハ唯ヨハ子あるのみ是れ福音者にあらず  
 やドミシヤン帝のために遠流せられてパトモスの孤島に  
 主の顯現と見たる是れ預言者にあらずして何ぞやまた其  
 の福音書は大いよ自餘のものど其趣を異にせり蓋しヨハ



子は驚のごとくに神の御座に昇り而して曰く元始に言ありきと教授ブルムトル云くヨハ子は使徒全社會の神學者なりしなりと  
 ヨハ子の書を熟知せる輩はその能く神聖高妙事物を深く察知したるを知りまた其心性を見れば世の救者にして且つ此上もなく崇敬すべき神の子にしてまた人の子たるクリストの風采おのづから其のうちに反射せりと思ふなるべしヨハネがクリストのことに關したのれが見聞せるところを記せるや周到緻密實に絶間なく夫子に附隨し居たるものよ非ずんば能せず唯時々之に接したる位にては是決して成し得べきところにあらざるなりヨハ子傳福音書

第一章に見えたる言語の如きハ衆人ハ能く知れるところなり此れ語眞に其の口より出しことは聖經辨折學の今日の程度にてハ疑も無きことなるべし  
 此の書のうちにヨハネハ子細に之が説明と加へざれどクリストハ實に神にして毫も之に反ばざるところ無きものなりといふ高大にして且つ殆ど驚奇に堪へざる教説を明言したり彼のロゴス言なる語を歴史に照し語法に徴して意義を究め文學及び訓話學の原理に本きて本傳の首端なる數節を檢定するときハ余輩次のごとき判斷を下さざるを得ずヨハ子にして若しクリストは始め無く終り無く神と同一にして實に神たるものなれば神と等しき崇敬を



受くるよ堪へたりとの信仰を言ひ顯さんと欲すれば該福音書の第一章一節に見えたる如く元始に言あり言は神ともにもにありき言は神なりきと言よりほかふ簡單直接明瞭なる文ハ得難るべし

ヨハ子の黙示録はクリストの事を開示する甚だ著明にして其れ福音傳ふ譲るところ無しと見ゆ云く

我は生るものなり前に死にしことあり視よ我は世々窮りなく生んア、メン我は陰府と死との鑰をもてり(黙示録一ノ十八)

二十四人の長老寶坐よ坐するものよまへに伏しこの世々窮なく生けるものを拜いぬのれの冕をりの寶坐のまへに

投出しひけるは主よ爾ハ榮と尊貴と權威を受くべきものなり爾は萬物を造り萬物は意旨よ由りて有ち且つ造れたり(全四ノ十、十一)

彼ら神の僕モーセの歌と羔の歌と謳ひていひけるハ主全能の神爾の行爲は大いなるかな妙なるかな萬民の王よ爾此道は義なるかな誠なるかな(全十五ノ三)

羔之に勝なり蓋羔もろくの主の主王の王にして之ともにあるものハ皆召れ選ばれたる忠信のものなるに因る(黙示録十七ノ十四)

以上ふ掲げたる文の上にて注意すべきことふは斯らの頌美の詞ハ父なる神若くは聖靈なる神に奉れるものに非ず



すなはち神のクリストを指して志かいへるものあり  
是と以て観るときはヨハ子の説に據ればクリストハ取り  
も直さず眞の神にしてイザヤが曾て顯現のうちよその榮  
光の聖殿に充ちて基趾を揺り動すを見たりしもの是れな  
リクリストはアルファラメガなり眞の神なり(黙示録二十二  
ノ十三約翰一書五ノ二十)また我らの罪および我らの罪の  
みならず全世界の罪を贖ふものなりとす(約翰一書二ノ二三)  
福音を天下よ廣むるよつきては其の功パウロの次にある  
ペテロの思想確信は頗る吾等の注意するに堪たるものな  
るべし是より其のクリストに關せる意見の大要を述べん  
とすペテロ曾て三年のあひだイエスと、もに起居トれの

が身のうへよ深く基督教徒の實驗を成し得たるのちクリ  
ストのことを録して云くイエスクリストハ天に往きて今  
神此右(大權の在るところ)に在せり諸の天使權威あるもの  
能あるものみな彼に服ふなり(前彼得三ノ二十二)  
クリストも一次罪のために苦を受く義者不義に代れり  
是れ我らを引きて神に至らんためなり彼其の肉體は殺さ  
れ其の靈は生されたり(全三ノ十八)  
また贖の説を痛論して左の眞理を主張せり曰く爾らの贖  
はれしは銀や金の如き壞るものに由れるに非ず疵無く汚  
黒無き羔のごときクリストの寶血に由れることと知る(全  
一ノ十八九)ペテロは比喩もしくハ表式を以てし或ひは事



實に訴へもしくは預言に徴し常に耶穌基督を以て靈魂の  
 牧者監督(彼得前二ノ二五)と呼び其の邦國ハ無窮(全後一ノ  
 十一)其れ榮光は永久に之に歸せらるべし(全後三ノ十八)と  
 説けり  
 是を以て觀るときハ此ら三使徒の所見いづれの點にある  
 やを明知し得べしまた此の説はひとり三使徒のみに限ら  
 ず自餘のものども皆之に全意なること敢て疑ふべくもあ  
 らず且つ使徒等在世の時に方りてハれより更生せる信徒  
 大体之と全一の意見を取リたり特に其の時代のみなら  
 ず古今ともに基督教會ハ此教旨に基き之ハ唱和して成り  
 立ちしものにて奇なることよハクリスト教の最も旺盛な

りしは此ら教説を維持し之を以て其の基本と爲す職ら  
 由れるは歴史上の事實なり  
 然れども暫らく眼を轉じて此ら使徒等の如きクリストの  
 特殊なる友侶のほかを觀察すれを決してクリストの降誕  
 に著き關係ある牧人及び博士の事を看過するを得ざるべ  
 し余等は其の言語を以てするよりも其の行爲よ由り一層  
 明らかニ思想の在るところを推知するを得るなり抑此の  
 牧人等は素より敬虔の心を有ち平生心を注めて約束の應  
 驗を待ち且つ尋ね且つ望みて在りしものなりしが一夜寂  
 として聲なかりしとき此の世にハ未だりの例を聞ざる音  
 樂俄かにして山間に聞えたり傳に據るに彼等之を聞て奇



異の想となし神の導に由り起きて或る厩に至り嬰兒なる  
 クリストと其の母及び母の良人に遇ひ跪きて之を禮拜せ  
 り牧人の人となりおよび其の行爲蓋し是の事とし  
 聖書のうちに博士と稱へたるハ即ちベルシヤより來れる  
 ものよて疑ひ無くツロアストルの宗教を宣べ傳ふる徒に  
 て必らずや信仰を懷き居りしものならん且つや其の信仰  
 ハアブラハムが初めてメソポタミヤの故山を出て約束の  
 地に向はんとせしときに有てるもれとさしたる差別あら  
 ざりしなるべし彼らハ文物旺盛の國より來り能くもろく  
 の詐偽を看破するの學識才藝を有しながら彼の厩に入り  
 嬰兒に近寄りて槽に跪きて之を拜せり

此の牧人及び智き博士等の施洗者ヨハ子の母エリサベツ  
 イエスの母マリア及び其の降誕を不思議よ告示せたる天  
 使ガブリエルと同じく彼の生れたる聖きものハ神の子な  
 りと思惟したるなり  
 且つ此ら証人の信認ハ各超理的の啓迪に由れることと見  
 ゆ例之天使神の靈及び星の如きものハ彼等の敬虔なる心  
 にかいて切に説き勸むるところなりしなり實に此れ人々  
 は見るところ感ずるところありて之を信じたりと云ふべ  
 し  
 イエスの年漸く邁みて成長るに従ひ其のことを論ずるの  
 聲とり四方に聞えたるを新約書中に記載せられて疑を



容るべからず例之イエス十二歳のとき聖殿ありて洛陽の博士と談論しけるに人皆其の智恵と答辨とに驚けり其の後に至り遠慮に富めるニコデモなるものあり元來謙直自重此性質なれば何事にても奥底を究めずして止むべきやうなしとす此の人即ち耶穌此事を証して曰く  
 ラビ我ら汝ハ神より来リ師なりと知る其ハ神もし人と借ならずば汝が行ふこと休徴ハ人之を行ふこと能はざればなり(約翰三ノ二)  
 ロウマの貴紳某はイエスの音容に感じ其の威能に心動きたれば爾の子生きんといへるキリストの言をカナにて聞き現にカペナウムよて死に垂たる其子の平癒疑ひなしと

信じたり(約翰四ノ四六以下五四)

また或るロウマの士官ハ其の僕の病みて死あんとしたるときイエスにむかひて曰く主よ自を煩はすこと勿れ我が家裏に入れ奉るハ憚多し故に我爾のまへよ出るもまた憚ありたゞ一言を發したまはゞ我が僕ハ愈ん其ハわれ人の權威のしたに属るものなるに我したに亦兵卒ありて此に往けと命へバ往き彼に來れと命バ來る云々(路加七ノ六七) 會堂の管司ヤイロイエスにいひけるは我が女已に死ねり來りて彼に手と接たまはゞ生くべし(約翰九ノ十八) ピラトハユダヤの知事ふして大いに其の民に庇護を與ふるものなりしが此人イエスにつきて左のごとき證を立て



たり而して其の言後世の偽作非ること疑ふべきにあら  
 ず曰くピラト祭司の長有司によび民等と呼びあつめて曰  
 ひけるは爾等この人を我に携れ來りて民を亂したるもの  
 なりと爲せり我汝らが訟ふるところをもて汝らの前に鞫  
 けども其の罪あるを見ずへロデもまた然なり汝等をへロ  
 デに遣せど彼もイエスが行しことこの死罪に當るを見ざり  
 き(路加二三ノ十三以下十五)  
 愈く刑に處することとなりしときピラトれのれの手を洗  
 ひ叫んで曰く此の義きものゝ血に我の罪なり爾ら自ら之  
 に當れ(馬太二七ノ二四)  
 馬太傳ふ録されたる若く(二七ノ十九)我らの主十字架に懸

らるゝの朝ピラトの妻書を良人に致して曰く此の義き人  
 に爾干ること勿れと有名なるロウマの貴族にてレントラ  
 スと呼れし代官の言はまた以上の種類に屬するものとい  
 ふべし彼が曾てロウマの元老院に遣せりと言ふ一書に  
 曰く  
 頃日イエスキリストと稱ふる大徳の君子我らの地方に出  
 入せり異邦人の之を以て眞道の預言者なりとす然れども  
 其の門弟子之を神の子なりと稱す彼能く死者を甦らせ諸  
 の病を癒すの力を有せりと  
 此のほか左まで名は高からねど敢て識量劣りといふべ  
 からざるもの數人ありて前に擧げたる人々と全意の説を



述べたり例之サマリヤの婦人の次のごとき語を以て吾が  
 邑里の人に説き勧めたり曰く我がすべて行しことをわれ  
 に告し人を來りて觀よ此れクリストに非ずや(約翰四ノ二  
 九三十)と此に在いて郷人出で來りイエスに見え證をたて  
 と曰く今汝の言し事に因て信するに非ず我儕自ら聞きて  
 此を誠に世の救主と知りたればなり(全四ノ四二)久しく血  
 漏を憂ひたる婦人ありしが太くイエスの威能ふ感激して  
 曰く若し衣にだも捫らば我は癒ゆべしと(馬太九ノ二一)ラ  
 サロの姉妹にて預て心利たるマルメ曰く主よ然り我汝ハ  
 世に臨るべきクリスト神の子なりと信ず(約翰十一ノ二七)  
 吾らの主十字架に釘られし時猛きロウマの武士も感ずる

どころありて曰く此こゝろ誠に神の子なりと  
 特に一個單獨此人のみ時々クリストの眞にメツシヤたる  
 を感ぜしにあらす衆人の舉りて斯と認めたることまた無  
 きに非ず例之構廬の節ありし時彼らイエスを執へんと謀  
 れり然れど其の時未至らざるが故に措手するものなかり  
 き民のうちをかくの人之を信じいひけるハクリストの來  
 らん時其の爲すところの休徴此の人より多らんやと(約翰  
 七ノ三十三一)  
 民のうちにてこれほくの人此の言を聞きて此ハ誠に彼の預  
 言者なりといひ或ひは是れクリストなりといひ或ひはク  
 リストガリテヤより出づべけんや聖書にクリストハダビ



テの住し郷ベツレヘムよりこり出でんと録しよあらず  
 やと是よたいて民ども彼につきて争ひ別れたり其のち  
 に之を執へんとするものもありけれど敢て措手せしもの  
 はなかりき(全七ノ四十以下四四)  
 下吏ども祭司の長とパリサイの人たち此もとに返りけれ  
 ば彼等下吏にいひけるは何ぞ彼を曳き來らざるや下吏こ  
 たへて曰ひけるハ未だ斯人の如く言し人あらずパリサイ  
 の人いひけるは汝らまた惑はされし乎有司またパリサイ  
 の人のうちに之を信するも此あらんや律法を知らざる此  
 の衆の人は罰すべきものなり其のうちの一人ふて夜イエ  
 スに就しニコデモと云へるものかれらに曰ひけるハ其の

人に聽す其の行を知らざるときに其の罪と定むるは我ら  
 の律法ならんや彼らこたへて曰ひけるは汝もまたガリラ  
 ヤより出でしものなるか尋ね見よ云々斯て各人家に歸れ  
 り(全七ノ四五以下五十)

ナザレの民亦大いに驚駭て曰く此の人の智慧と奇異なる  
 能ハ何處より來るやこれ木工の子ふあらずや其れ母はマ  
 リア其の兄弟はヤエブヨセシモンユダにあらずや其の妹  
 等はみち我儕どもに在るにあらずや(馬太十三、五四、五五)  
 曾てベスサイダの曠野にてイエスの神奇なる行爲を目撃  
 し其の恩言を聽きたりし諸人は叫んで曰く此はまことに  
 世に臨るべき預言者なりと(約翰六ノ十四)



其のうちにクリストが凱歌をもてエルサレムに入りしとき  
 此ほくの人々皆喜び其の見しところの奇跡なるすべての  
 能に因りて大聲に神を讚めたり(路加十九ノ三七)前に往き  
 後ふしたるがふ衆人呼びいひけるハダビデの裔ホザナよ主  
 此名に託りて來るものハ福なり至上者にホザナよ(馬太二  
 一ノ九)

其の十字架に懸り一日に上下の官吏有司庶民をはじめと  
 して之を仇敵と爲せるものどもふ至るまで恐怖一方なら  
 ざりき其の心未だ熾になりし程ならぬ衆人の近頃世を經  
 過きしものは是れエホバなりと思へり

上文ふ説くところの如きと蓋し當時天下に行はれたるク

リスト論の一斑と示す足らん若し夫使徒時代及び初代  
 の人々の所見を一々掲録するがときハ此の小冊の目的  
 にあらず之を要するに讚美歌にまれ又は禮拜祈禱文にま  
 れ或ひは辨難議論答解の著書にまれ凡そ當代の作にして  
 今日又つたはれるものハクリスト萬物の創造者なること  
 及び其此死ハ救世ハ基礎にして威徳恩恵ともハ人類の極  
 めて崇拜するに堪ふるものなるを信じ之を確認するの語  
 を以て充ちたるもの多しとす此の説は杜撰に非るを証せ  
 んがために今ここに一二の例を擧げんとせばジュリア  
 ン帝ハクリストを造物者なりとするを誤謬を思ひ其のこ  
 ろに信徒を難りて曰く汝らの説んと欲するところに據れ



ばイエスの天地とを造りしものたらざるを得ずと  
 世に紀念神學と稱ふるものを搜索するにクリストのすべ  
 て古代の教會の言論ふたいて中央の位置を占め或るとき  
 はアルパ、フメガと稱しまたあるときハ永遠なるもの造物  
 者もしくは終極なる主宰者と名けられたりゲリツクの説  
 に曰くクリストを以て神と人との性と具へ天地を造りし  
 者なりと信ずるの説ハ古代の教會に最も大いなる多數を  
 占めたり時に因りてハ首尾を正し精密よして能く此の教  
 理を辨護解説せざりしこともあれど蓋し上文の若きハ争  
 ふべからざる事實なるべしとフランセスニウマンは語に  
 紀元後百年及び全一千八百五十年間のクリスト教國は常

軌を離れたる最小數をのぞくのほかハすべてイエスをも  
 て絶倫神異のものと爲せり云々とあるも確實なる証據溢  
 る、程なれをのみ  
 三一の説につきてハ誤まれる所見を執れるセロドルパ  
 ヌルの如きも初世紀幼稚の教會がクリストを以て萬有の  
 上に立ち毫も上帝に異なるどころなしと思へるハ確實な  
 りといひまた敢て抗論を試みることなかりき  
 然のみならずクリスト贖罪のことハ初代有名なりし人々  
 の多く確信して口に唱へたることなり例之デラシタス  
 の書けりといふ古き簡牘に曰く神ハ吾らのために其の子  
 を與へたりとロウマのクレメントハクリストの義能くわ



れらの罪と蔽ふと説きイグナシヤス神の祝福せる受難(ク  
 リストの)吾らの注意を促しシヨステンマルテルハクリ  
 スト全き人類の苦痛を荷へりと言ひイレニヤス神聖なる人  
 の子即ち眞子神にして人なるもの吾がこゝろより起り  
 て自ら人に代らんとて世に來れりと述べたり  
 尙ほ後に至りてハトルトリヤンクリストを指して神の普  
 遍なる祭司と號けエルサレムのシリルハクリスト其身に  
 吾らの罪を負ひたりといひまたアレキサンデリヤのシリ  
 ルハイエス其の十字架を以て舊き罪案を滅せりと教  
 へたりアサナシヤスアウガステンアムプロースの著書中  
 にも之と同じき説多く見えたり上文よ記載せる中よ就き

イリニヤストトルトリヤンの語ハ殊に明白にして判然たり  
 といふべしイリニヤスが謹んで古き道と守るものども  
 ことと論じたる語にいはいはく彼らハ神の子イエスクリスト  
 により天地と其のなかの所有ものと造れる獨一の神を信  
 ずクリストハ即ち其の受造物を愛すること極めて深き  
 又由り處女の胎内に寓りて神と人との性を合しポンテラ  
 ビラトの治下に辛苦を受け復生りて榮光のうちに舉られ  
 後ち再び榮光のうちよ來り救ふ入りしものゝ救者となり  
 罰を被ふるべきものゝ審判者となりおよそ眞理を枉げク  
 リストの父を蔑如し其の再び世に臨まんとことを輕しむる  
 ものどもを永遠の火に逐ひ遣らんとす



トルトリヤンハ次の事を以てクリスト教會ふいまだ異端の起らざりしとき福音の初發より堅く信服せられたる標準なりと言へり曰く獨一の神を信じ其の言クリストは即ち此の獨一なる神の子にして神より來りし者なりと認め萬物皆之に由りて造られ之に由らずして造られし者は一もあること無く彼は父よりつかはされて處女の胎内に寓り之より生れて實に神と人との兩性を具へ人の子にしてまた神の子名てイエスキリストと呼び後つひに聖書に記せるごとく苦を受け死して葬られ父に復活らされて天に昇り父の右に坐し生るものと死せしものと審判んため來らんまた其の約束を履みて聖靈なる慰むるもの即は

ちれよそ父と子と聖靈とを信するもの信仰を聖るものを父より遣るべきを信するなる云々  
 斯のごとく此らの時代に於いてクリストを以て神と尊榮と等うし世を贖ひ救ふものと信じたることを明かなるのみならず之を上無きものと倣いて禮拜したることまた著明なる事實にして疑を容れざるところなり  
 其例證を擧んに古ハ祈禱の終に於いて榮光を神に歸するるときは方リクリストの名を擧げて神と同一の崇敬を致すことは一般の風習なりき其例すなはち左の如く曰く蓋し榮光尊貴崇敬は汝(イエスキリスト)に歸し且つ汝に由り聖靈よ於て父なる神に歸し世々窮無きに至らんとす又曰く



是れみな吾らの神なる救主クリストよ由りて願ふ之に由り聖靈よたいて榮光及び崇敬汝(父なる神)に歸し世々限な  
 らんとすどトルトリヤン曾つてロウマ戯劇場に往く人  
 々と誠むるに祈禱の終なる頌詞の定式を以てしていへる  
 ことあり曰く汝ら榮光は世々窮りなく汝らの神クリスト  
 に歸すと聲と合せて言ひたる口を以て争で彼の搏獸者  
 (猛獸など)技を角ぶるものをいふ(を)稱揚することを得る  
 やと  
 古への代に最も普通なりし頌詞は榮光父と子と聖靈とに  
 歸すべしといふ是なりペーセル曰く此の式ハイリニヤス  
 シレメンスイエシビヤスオリジン其他の人々の用おた

るところよて東西の教會に通用せられたりと  
 人若し更し他の證據を要求せんとならば余等はイエソビ  
 ヤスが最名あるヘブライ人なりと呼べるユダヤの人トリ  
 フオのことを示さんと欲す此の人のユダヤ人にしてクリ  
 スト教徒となれるものを潮りたる言にいはく之より愈れ  
 る神あらんものは異邦人のイエスを禮拜すべからずと  
 プリニイは初代のクリスト教徒のことよつきトラシャス  
 帝に奉つれる上申書よ讚美歌のことを載せて曰く是れ彼  
 らが之を神と思ひ倣せるが如くクリストに向ひて歌ふと  
 ころのものなり  
 懷疑者なるホルフェリ曰くクリスト教徒はクリストと



神として禮拜すまたポルフエリ―一流の人なるヒエルクリス公然クリスト教徒を難詰して曰く汝らはクリストが數人の育人を癒して其の眼を明かにし其他之に類せることありと傳ふるを根據と爲して之を神なりと主張するなり云々

茲に余等の記臆すべきことには使徒及び辨護の時代に於いて上文に説ける如くクリストのことを信じて主張したるものは方正廉直の人々にて敬虔に富み學識を具へしも此なり中には當時にありて最も大いなる智慧を有し世の文學哲學科學の叢林ともいふべき人少からず殊に彼らはこれの信仰を固守し道のために斃れしなり後に至り教

會中に各種の異端起りたれどクリストの性行に關してのみな尊敬の語を遺せり

例之第三世紀の末にペルシヤ國にマニキアンの徒なるもの起れり教理に付きてはパレステナ及びロウマの信徒に異なるどころ一よして足らずといへども彼らもまたクリストを以て超理的なりといへり實に神にのみあれど其現るゝところ人ふ類すとは彼らに所見を表式する套語なりき

紀元二百六十年ころにエジプトに一派の異端起るサベリヤン徒と稱す此の輩が三一の説を述るの言辭文格に至りては教會の多數と異なりたりといへどもクリストの顯現のうち上帝の臨み存在せることを固執し之を呼んでテア



レスロポ即はち神人といへり  
 四世紀の初にアリヤンの徒なるものあり教會の史上ふ著  
 明なり按ずるよ此は三一の「ペルソナ」全く同等なるを承諾  
 はざる異端にてありき然れども彼らがクリストを論ずる  
 を見るに曰くクリストはすべて限ある存在者の首に立ち  
 ねよそ時期を以て限られたるものゝ始まりし前に始りし  
 ものなりと此派の創立者なるアリヤスハカイザリヤのイ  
 ニシピヤスが作りたる左の信仰此箇條を承諾せり曰く我  
 ハ能はざる所無き父にして見るべきと見るべからざると  
 すべての物を造れる獨一の神及び神の言神の神光の光生  
 命の生命ひとり生みたる子なるイエスキリストを信ず即

はちすべての世界よりさきに父の生みたる萬物の首生者  
 にてもろくの物皆之に由りて造られたり彼我らの救はれ  
 んためよ肉身と取りて人のうちに寓り苦を受け第三日よ  
 再び起ちて父に上り活るものと死しものと審かんため  
 榮光のうちに来るべし我獨の聖靈を信す此ら三つのもの  
 各自存在を保てり即はち父は唯父のみ子ハたゞ子のみ聖  
 靈ハ唯聖靈のみにて存在せりと信ずるなり  
 是を以て見るときは異端を唱ふるものも正き信仰のもの  
 とともにクリストの特殊の神たることとバ其實認めたる  
 ものなり約めて言へばクリスト教の開けたる所には萬國  
 の間及び智愚賢不肖の別を論ぜずたよそクリストを信す



るものの中に、異端正道を執るの差異あるにも拘らず皆  
 ナザレのイエスと以て超倫超理神聖なるものと信じたり  
 此の説はすべての教會と教旨との論争中に於いて故障を  
 被ふることなく各派ともよ明かに主張したるものとす  
 已に説明せる如く初代の師父等の言説と擧げんとするれ  
 みよても此小冊子の分限と超るの恐れある程なれば況ん  
 や其より降りて千五百年間と此の世紀との有名なるクリ  
 スト教信徒の所見を悉く集めんと欲するも得べからず若  
 し高名なる福音道の信徒の言にしてクリストのことよ關  
 れるものと擧げんと幾巻の書冊を填むるも其際限み達す  
 べからず實に日耳曼フランス英倫アメリカ等此虔誠深遠

なる經學者及びこれよそ文明國にありてクリスト教を奉ぜ  
 る詩人哲學者政治家教師說教士などの言説は極めて勢力  
 あるものとす試みよクリスト教國の圖書館に入りて見よ  
 哲學科學技藝詩歌の如きは說教及び聖經の解詁學とも  
 に力を協せてクリストの榮光を顯はすものなるを知らん  
 然れども余儕は素よりクリストの神たること其の臆の理  
 及び神と等しき崇拜を受くべきの權理あること等を確信  
 せる諸大家の明白なる證言をば暫らく措き純粹なるクリ  
 スト教に反對せるものより其の所見と尋ね來らんと  
 欲す何となれば疑者恐らくは此の類の證言を以て更に  
 勢力あるものと見做すべければなり



先づ古代に溯ぼり使徒の時に至りて彼のイスカリオテなるユダ説と問はん此人鋭眼にして能く人を識るの力あり三年のあひだ道德の維持には最も危険なる用度の長たりしが後イエスを賣りたることを悔い祭司と有司とに叫んで曰く我れ罪無きの血を賣りて罪を獲たりと

ルシヤンハ第二世紀前年の人哲學者にして教師の任と兼ね著はすところ頗る多し平生クリスト教を嘲笑譏毀し甚だしき無根の妄言を附會するに至れり然れどもクリスト一身の事をいふときハ即ち曰くパレステナにて十字架に懸られたる彼大いなる人物と

ポルフエリ第三世紀の中葉に顯はれ一人にて識見普通

に超え其の氣象稍高尚に見るべきものあり然れども太く教會に抵抗し隙だよあれを必らず之に乗じてクリスト教と攻撃したりけるが深く注意してクリストの品性に少しも攻撃を加へず之を崇めて神とするものを憫笑をれどもイエスを稱して敬虔の人なりと言へり

教會と攻撃迫害するに於いて最後名を著明に倣せるものジュリヤン帝とす始め桑門の教育を受けたるに由り自然クリスト教を思ひロツマの像教を以て之に勝れりと思へり然れども福音史の真正なる年月を承認せりイエスの未だ曾て行はざりしこと々もと以て非難を加ふることあるはクリストの能く風を禁め海に歩み魔鬼を追逐せること



との實なりといへり  
 是よりのちの迫害黑暗懶惰放擲の時代久しく打ちつゞき  
 たり余儕之を論ぜずして看過し先づゼルマン國近代の學  
 校と訪はんと欲す是れ彼の國の懷疑學を以て歴史上英國  
 佛國等よりも早く發生したりと思ふが故に非ず唯ゼルマ  
 ン國の聖經の辨拆學に在いての宇内一等の地位に立つを  
 以てのみ

レッシングは疑學の巨魁にして神學世界は非常の擾亂を起  
 せる人なりクリスト教を攻撃する論者が之を以て吾黨中  
 のものと倣し殊に純粹なる福音教を駁する同志たらしめ  
 んとするも理由あることなり然れどもレッシングのクリ

スト論を聞けば曰く  
 一層勝れたる教師來りて幼兒の手より舊びたる初學は書  
 と奪ひ上げざるべからず即ちクリスト來りて之を成せ  
 り  
 斯の如くクリストの靈魂の不朽なることにつぎ始めて憑  
 依むべく且つ實地用を爲すべきの教師となりたるなり  
 何と以てか之を憑依ひべき教師なりとする曰く其の憑依  
 ひべきの理由は蓋し諸の預言クリストに在いて應じ且つ  
 クリスト多の奇跡を行ひ死して後復生りて其の教説に印  
 したるに在りどす復生のごとき此ら奇跡を證明するを得  
 べきや否といふ問題は此のクリストの誰なりやといへる



ことと共に我之を未定に措かんと欲するなりすべて此事  
 どもに當時に在りて其の説を信ずるために徴証となりし  
 ことならん然れども今は最早此の教説の眞實なると認め  
 るの徴証となす不足らざるなり  
 また何を以てか之を實用と爲すべき教師ありといふ蓋哲  
 學上の構想として靈魂不朽の説と假定し之を冀望し之と  
 信ずると此説を以て人の内外の動靜を指揮するといふ大い  
 に異なれるものなり而して始めて此の事を教へたるもの  
 は唯りクリストあるのみ  
 イマヌエルカントの神學上の見解はレツシングと余り逕  
 庭するものに非るべし

一友人曾て其著書の中ユカントの道德論とクリストの道  
 徳論とを比較せんとしたるときはそれが名のクリストと  
 肩を比べて立るを見て背に汗するの思を切ふ其文の塗  
 抹せられんことを求め其の理由を附して曰く  
 君が記載せる名の一は按ずるにクリスト天の俯し拜むと  
 こ迄にして如何にも神聖なるものなり他のものはわが名  
 ならん唯一個の力無き學者にして其の才能を盡し以て夫  
 子(クリスト)の教言を解説せんと試るものに遇さざるなり  
 と

シエリング大抵の評論家が凡神論者不信説家のうち  
 に置く人なるが斷然として明言して曰くイエスの降誕は



世界の歴史が行路を更めたる機軸なり又曰くイエス、クリ  
 ストは活ける言永遠の説教なりと  
 世人が誤りて疑學者無神論者と呼べるフイヒテハクリ  
 ストを以て吾が哲學と創めて説き出せしものなりといへり  
 又曰くイエスが天真高明に道義を普通人民の家と心とに  
 入らしめたるよれいてハ其爲しところすべて他の哲學者  
 に超たり又曰く天地のあらん限りれよ心あるものは  
 このナザレのイエスの前に俯伏し皆謙りて此の大なる  
 現象の榮光を承認するならん又曰く其の徒は邦國及び世  
 代なり云々  
 ヤコビを以て疑學者のうちに算ふるハ如何にと少く躊躇

躊躇ふところもあれど其教法上の見解を以て言へば決して  
 純粹なるクリスト教徒にあらざるなりヤコビハ終まで是  
 定のクリスト教に付きては大いに疑惑するところありし  
 かどクリスト性行のまへに謹んで拜伏したるなり  
 ヤコビ曾てゼルマン國にて人民の詩人と呼らるゝクラウデ  
 ヤスクリスト論を賛襄て曰く  
 是れ何らの繪画ぞまた何等の高大にして感に堪へたる對  
 照ぞや神人を合一せる此の完備なる模範のうちに叢れる  
 美妙和氣威嚴の勢力如何をかりぞや云々  
 クラウデヤスの語に曰く未だクリスト此如く世を送りし  
 ものなくまた之に關して聖書に記載せるがごときことハ



未だ曾て人の心に入りしことなし。クリストは即ち禮拜のために出でたる憫然なる行客れまへに夜中の星れ如くに昇り其の内心の欲望とりの最も秘密なる哀求及び志望を満足せしむるところの聖き形状なりと

リヒテルは正當なるクリスト教を嘲るものにて世よ知られたる人あるが耶穌を稱して曰く是れ勇者の最も清きものまた清きものゝ最も勇なるものなり即ち其の刺れたる手を以て基趾より帝國と引き上げ歴史の流を其の舊の溝路より轉じ今よたいても尙ほ依然として世代を治め能く之を指導すと

ギエテはセルマンのウオルテールと稱せらるゝ人に教法

に付きては極めて嚴正ならざるものなり後の疑學者及び異端の徒は皆其説に由りて資料を取らんと欲するに似たり然るに左の若き奇抜なる名を以てクリストを稱せり曰く神聖なるもの曰く聖一なるものと又イエス受難の事論及して曰く我ら此のことのうへに幔を引かんと欲す蓋しわれらの之を崇ること斯れ如くに盛んなりと

又曰く我福音傳を以て全く正史なりと思惟す何となれをイエスキリストの身より發射する高明正大の光其の紙上に表る此の神妙なる光ハ神妙なるものに非れを決して地に顯し得ざるものなりと

ノヴァリスハ風韻に關せる文學の世界においてギエテリ



ヒテルと並び稱せらるゝ人なり元來「プロテスタント」教會に列するものなれど稍加特力教に傾きまた時に一種漠然たる凡神説を唱ふることもありき其傳と著述せる人の評に由れを「ヴァリス」ハ虚飾偽善を爲し得ざる人なるが常にイエスに向ひて吾が主と呼べり曾て其の死を論じて曰く「クリスト」は人類のうちにて至大なる殉教者なり之に由りて義のために斃るゝことは限りなく重く聖きこととなりたり

「デウエツテ」以上數人と同じく破壊主義の人なれど多くの教説に付て甚だ正當の地步を占め極端の道理論にハ劇しく反對したり殊に彼らが「クリスト」論に對しては最も然り

とす其の言に曰く「イエス」ハ疵なく罪無きものなりとヘゲルはあらゆる誤謬の贊成者にせらるゝものにて之を以て「クリスト」教の最も鋭き敵手なりとする人少なからず然れども之が傳記を叙述せる人の曾てヘゲルを以て「クリスト」教に太く遠かれるものと傲せる論者に答へたる言に曰くヘゲルは此のれが思辨せることの毫も「クリスト」教に背違せざるのみならず全く調和して致を一にせりと深く信認したりヘゲルが神學に對し初發よりの關係を知れる吾儕には是れ最も驚かるゝことなり

蓋しヘゲルの見解に據れを其の説の純正なる「クリスト」教のために學科上の基礎を供ふるものたるなり



ヘゲルのクリスト論に曰く神人合一のことはイエスの自  
 覺シヤスネスに在いてはじめて現出し終に其生涯の性行に在いて  
 すべて此の合一を制限するものをして極點まで減縮せし  
 むるよ至れり此の事についてクリストは世界の歴史に獨  
 歩して匹敵なきものなり  
 ストラウスの近代の疑學者中最も鋒々たるものなり余  
 之を以てゼルマン國道理論者の説を列擧するの終末とな  
 すべしストラウスの教會の定説に反すること甚だかり  
 しといへどもイエスのことを贊稱して曰く此理想上の  
 人性を改良せるものうち在いて第一等の地位に立  
 るものふいて吾儕が思想の及ぶことを得る宗教上最高の

模範ほはんなりたよそ完全なる敬虔けいけんのクリスト心内に臨み居ら  
 ざれば成就じゆうじゆし難きことあり

ゼルマン人のうちには學業若くは勤務の中よに在りてイエ  
 スのことにつぎ未だ曾て一巳の定見を得ず爲に信徒不信  
 徒とも之を各自の黨與となすもの多し此の種類は人物  
 を代表せしめんと欲せばキウアリエルブンセンの若く有  
 力りよくとして十分なるものなかるべし余儕ハ今ブンセン氏  
 の傳でんを作り之を評論せるもの言と借用して其の説の所  
 在ざいを示さんと欲す曰く

ブンセンハクリスト復活の證據に確然たる信を置ざるが  
 如くに見ゆるを以て世のクリストの子類を悩せたること



もあらん然れども死に垂として毎にクリストのここの  
みを思ひ其れ主君(クリスト)を愛するの歡樂胸間に溢れた  
リブンセン時に聲と擧げ叫んで曰く上の方上の方よ此れ  
決して愈闇くなれるにあらず常に益明けくなるなり神は  
生命なり愛なり即ち意志あるところの愛また愛する  
ところの意志なりクリストの勝利を得たるものと認めらる  
クリストの勝利を得しものなりと  
スピノザの近世凡神説は首唱者にして深く實際の敬虔に  
富み思想の造詣極めて高遠なり和蘭のアムステルダムに  
生れユダヤ人を父母とせるが故に正當のセルマン人に非  
ず然れど其のセルマン人の思想と感化して之に影響を與

へたること甚だ大いなるを以て殆どセルマンの人となれ  
るが如しノヴァアリスシライエルマヘルレツシングギユテ  
の如きは皆スピノザの識見卓絶なるを稱せりノヴァアリス  
ハ之を神よ酔る人なりと云ひまたシライエルマヘル天下  
の學者よ乞ひ共に一束の鬚を清潔ふして然かも迫害に苦  
しめられたるスピノザの靈に奉げんと試たることあり故  
にスピノザのクリスト論は以上掲げたる所見れうち伍  
すべきものとす曰く  
理想上のクリスト即ち萬物のうちふ顯はれ殊にクリスト  
に在いて最も善く顯れたる神の永遠なる智と知るは唯一  
つの必要的事なりクリストハ神靈なる智慧の標式なり



ゼルマン國拔萃の美術士アルベルト、ドエレルは其の繪畫  
 の上に於いてクリストに關せるものが意見感覺を絶妙に  
 表出したりと、いふべし曾て憂愁の人(クリスト)此圖を作り  
 しが乃ち其の頭を他に轉じて容貌を隠すの肖像なり是れ  
 其の筆を以てするも十分にクリストの秀美を摸し得ざる  
 がために非ずや  
 余儕茲に於いて讀者に問はん、と欲す余儕は此ら深遠なる  
 思想家の唱道したることに如何なる價直を附すべきや彼  
 らは一時の感想に心を奪はれたるものなりしか其れ豈然  
 らんやたとひクリストを以て何なるものとなすべきにも

せよ彼らは深く其のいまだ曾て人類の達し得ざりし境域  
 に造詣したるものなるを確認したるも此に非ずや  
 余儕の今ゼルマン人より轉じてフランスの著述者に論及  
 せんとす若夫れ類別引抄のごときは皆前の概旨に従はん  
 と欲するなり

ジヤン、ジャシ、ルウソウはクリスト教と同感は點少からず  
 といへども彼が所論其の主義に反背せることまた少しと  
 せずルウソウのクリスト論曰く聖書に記載せられたる  
 此の神聖たる人物の單よ通常の人類たることはあるまじ  
 き筈なり昔しプレートが其の理想上の義人の状態と叙述  
 し即ち道義の至高なる褒賞を受くべき身と以て有罪者



一般の罰を蒙むること甚だしいふをもて至大なる理想  
 界の義人の神髓なりと論じたる恰もイエス、クリスト一生  
 の性行を述べ叙でたるものにあらずや  
 ルウソウがクリストとソクラテとを比較したることある  
 の讀者の熟知するところなるべけれど之を引抄するもま  
 た無益にはあらざるべし曰く  
 ソッフルニカスの子(ソクラテ)とマリアの子との差異は如何  
 計りがやソクラテは門弟子に圍繞れ友愛眞實の情溢るゝ  
 が若き言と聽つゝ名譽を以て死に就けり其の死や人の力  
 に依いて最も安易なるものといはざるを得ずイエスは侮  
 られ凌辱せられ異口同音ふ沮はれ非常なる痛楚を以て死

に就けり其の死や人類の恐怖するうちみて最も怖るべき  
 ものといはざるを得ず酖毒の盃を取るときソクラテは之  
 を與ふるに當りて涙禁せずして潜然たるものと祝福せり  
 イエス最も劇烈なる痛楚を受けながらおのれを惡むこと  
 極めて甚だしき仇敵のために祈りたり若しソクラテが哲  
 學者れごとく世を経過しまた世を逝りしならばイエスは  
 神の如くに世を経過しまた世を逝りたりといふべし  
 エフペカンの屢純正の福音教を攻撃して忌み憚るところ  
 なきものなり然れどもクリストは係れる其れ所見と尋る  
 に曰くクリストの道德上の品性の古代の聖賢に凌駕して  
 匹敵あるを見ずイエスは在天なる父の家に住みて未だ曾



て見えざるの世界を看失はざるなりイエス實に萬民の兄弟なるともつてまた萬民の君主たり其の道徳上の性行は全く神に充溢せられたるものとす

フランスの折衷學派中最も深遠なりとの聞を取りたるジヨッフロイ少しも躊躇ふところなくクリストは降誕を以て社會に在りて唯一の活潑布及の力あるものなりと斷言せりまたクリストは道徳世界の引力なりき今も尙ほ然りとするに至りては全くウイニールと同意せり

エルネスト、レナーンは太くクリスト教を攻撃するものなれど其のクリストの事蹟を尋ぬるや甚だ細密にして且つクリスト論につきては一ぱく其の持論と頗る抵牾せること

とをいひたれば他れものに比すれば引抄するところ稍長文に亘らんとすレナーンの所著にてイエスの行實と題する書に曰くクリストは其の門弟子の造り出せるものよ非ず其の状態は事毎に門弟子に勝れりといはざるを得ず……之を概するにイエスの性行はその傳と作れるもれと修飾に成るものなどと思ひもよらず反つて彼等のため

に小縮にせられたりと云ふべし

イエスの事毎に獨歩す天下何も此か之に比肩するを得べきイエスは宏大なる幅員の人、何ものよも比すべからざる人、また崇むべきものにして能く氣運大勢を統御し得るものなり滿天下の良心は之に神子の稱號を附與せり……イ



エスありしのは新たに興進發育すべきもの一物あることなり

クリストは人類の奉ずべき永遠なる宗教を創立せるものなりクリストよ汝と神との間に最のや區別するところなかるべし

レナーンイエスの行實記の終末に至りて曰く後世如何なる奇絶のことありて世を驚かすもイエスに勝ることあるべからず之を禮拜することの斷る時なくして益小壯ならんとす其の傳説ハ永く涙と催ふさゝむるの力あり其の苦痛は最も高尚なる心情を融すならん人の子のうちに未だ曾てイエスより大いなるもの生れざりきとは蓋し萬世の

公言するところなるべしと

後に至りレナーンまた使徒の行實を叙べたりしが尙ほ前論を固執せり此れ其の所見を更むべきの理由を見出さずれをなり曰くパウルはイエスにあらざ親愛ある主よ(イエス)われらの汝と距ること如何ばかり遠きや汝の温良汝の詩何所にか見出すべき花を見て歡び之が爲に感よ堪へざりける汝は此ら互ひに競ひ相共に權と争ひ事みなれたのれより出んことと望めるものを汝の門弟子たるを免したりや彼等は人なり汝は神なりきと明白にクリスト教に反對せる人々のほかに茲にフランスに一種の豪傑あり未だ曾て福音の恩を身に實驗せず且つ精確なる神學上の智識を



獲たりといふにあらねどクリストの事に關しては頗る  
 正當深遠なる所見を懷きたるものと見えたり  
 吾儕はナポレオンが聖ヘレナ島に在いて發言せるクリ  
 スト論は能く此の種類に屬するもの、議論と代表するに堪  
 へたりと思考す語中或ひは後人の之と傳ふるふ當り或ひ  
 は文飾したるところもあらん然れども書にかく大体はナ  
 ポレオンの言ひしことなるは明らかならぬ此の論趣又障  
 を爲すことあらざるべしナポレオン曾てイエスを評して  
 曰く  
 クリストに付ては一つとして我を驚かさざるものなり其  
 の精神のわれを畏服し其の意志は我をして爲すところを

知らざらしむ其の所説思想其の宣ぶるところの眞理及び  
 其の人を覺すの方法は人の觀察若くは事物の理を以て説  
 明すべきにあらず  
 其の誕生と生涯の歴史最も大いなる難題に涉り之を最も  
 驚くべきやうに解説せる其の教説の奧妙其の福音顯現及  
 び王國其の世代と邦國とに横行するが如き皆絶大なる奇  
 事ふして説明しがたきの秘義なり我之を思へば恍として  
 自失せざるを得ず此れ吾が眼前に存するの秘義なり我之  
 を無しといふこともまた説明することも成し能はざるな  
 り  
 期の如きハ實に人類の庸常にあらずわれいよく近く進み



精しく之を考ふるふいたがひて其のこと一々吾が才力の  
 得て及ぶところにあらず皆絶大にして我を壓倒するも足  
 れり  
 淺薄なる思想家のクリストと帝國の基業者及び他教の神  
 との間よ似たるところありと思ふなれを實に似る所の少  
 しもあることなし我人の性情を知るものなり而して汝に  
 告んイエスキリストは人ふあらざるなりと  
 此の言及び此らの許諾は如何なるものすや之を以て一時  
 の妄想と爲すべきや將た神の子實又人間に住みわれらの  
 うちに寓れりとの最も宏大なる思想は一斑にあらずや  
 また眼を轉じてフランスより英倫に至り近代までの不信

説家及び疑學者のいふところを聞くに二千年前世に住み  
 しイエスキリストを以て人類の史上雙なきものとぞるは  
 皆一轍に出でたるに全じ  
 正當なる福音の教旨に關し異説多きシエームスマルテナ  
 ヲハ時に左の如き思想を吐露せり曰くクリストの心の作  
 用の神の徳性によび攝理を顯現しし美妙と秀善とを實際  
 に摸したる理想にして神の能力によび神の智慧たるなり  
 また曰くクリストハ上帝の授任せる預言者完備なる模範  
 天の嚮導者なりと  
 根抵一新を唱へ大いに自由の主義を以て宗教を説けるマ  
 ヲケイ明言して曰くメツシヤの地位凱踰せるものゝなか



に就き獨りイエスのみ之を都合よくメツシヤとなり終るべき品性を理會したるものごとし  
 福音の教旨に反對せる他の一人なるグレッツクの次つぎの若く明白強健なる許諾を爲したり曰く  
 若し吾儕がイエスの性行及び教訓を極めて愛し敬ひ且つ嘆賞する所に相當して十分に之と言ひ顯さんと欲せばその多きを厭ふまでふ最上級の言詞を盡さずんば能ふべからず吾儕の之を以て智識もしくは哲學の上にならいて心の完備せるものと見做すにあらざる靈なる品性の完備せるものと見做すなり蓋し天父に交通するの近きとりの密なることに至りてハクリスト萬世のあらゆる人に超たりとい

はざるを得ずわれら其の語りしことを讀めば人類の卑ひき言語を以てその思想を包めることあるものうちにて最も智こく最も清く且つ最も高きものと語と交ふるの感無きこと能はざるなりわれら其の生涯の性行を講究するときは自ら地球上よて吾儕の目に接したるうちにて最も高き理想的の足跡を尋ね居るの心地すること無きを得ず教授シヨウエ英國の自由なる評説家の有力なる代表者を見做すべき人なり次の言のごときハ以て此らの人の思想の正當よ發表せるものとして可なり曰く人類及び教會の内部の生命はクリストの言に在りまた一個人が此世のものならぬ善性の肖像を見ること恰かも鏡面に於るがごと



きも此所にありといふべしと  
 マシウアルノルドは純正なる教理に反背せるものなるが  
 著はずところの「リテレテュル」及び「ドクマ」といふ書中にク  
 リストのことを左の如くに論じたり曰く  
 クリストの正義の何ものたるを示さんがために來れり正  
 義のほか功を奏すべきものなくクリストの所見即ち其  
 の方法及び其の秘訣と異なる正義の見解は一切取るに  
 足らざるなり云々  
 英國にてコムト者流の首唱家たる博士コングリーブ曰く  
 汝クリストに事ふること愈切に其の模型に則るますく厚  
 からは汝が同感嘆美の念従かひて鋭からんとす

コツプ女史は英人にして米國のセラドルパーコルの説に  
 嘆服せるものを代表すべき人なり其の言まいはく道理論  
 の點よりクリストを論じたるもがらハ首に其の思想を  
 其彼が道義の訓戒に注ぎて此上もなき世の道德上の改革  
 者と認めたり實に然り然れどもクリストのことは是のみ  
 と以て盡すべきに非ず  
 故に吾人のクリスト論に最も適切なる見解ハ之と以て人  
 類をして更生せしむるものと傲すことなりクリストの降  
 世ハ人類の生命に於るは恰かも更生の一個人の生命よ於  
 るがごとし是れ人類の普遍なる歴史より明白に推究する  
 を得べきことなり世界は實に變化せり此の變化は歴史上



クリストに淵源せるものあり  
 此らは明白にクリスト教に抵抗するものなる此に英國も他國とれなしく容易にうの属すべき種類を判別し難き人物のあるあり純正なる福音説を執るものは固より之を以て不信徒のうちに置んとする反對者の所爲もまた頗る不都合なりといはざるを得ず余儕の今斯の種類に屬するものと代表者たるは堪ふる僅く數人を擧げて満足せざるを得ず  
 信不信何れとも判然しがたきものうちにて至大の地位を保てるものハウイリヤムシヤクスピーヤならんゲーキ

が之を論じたる語曰く其の智力の規模宏大にして才器赫々種々のことに亘れるシヤクスピーヤが著書中に屢太く身を卑下りてクリストを飲み敬ひたることは吾人の熟知するところなり

トマス、カアライルは暗澹たる一大豪雄なり世間にてハ之を種々よ評しまた之を種々の部類に入れられけり然れどもカアライルの言イエスのことに及べば必らず口を極めて之を稱揚し以て至大なる俊豪と爲せり(カアライルが俊豪と稱するハ實ハ容易の談に非るなり)又曰くクリストの性は行は完備なる理想上の詩なり又曰く此の世界に起れる最重大事件の音信は全世界に民に取れてハ無量なる變動の徴



候且原因なるユダヤの神人の生死なり  
 ヲリストは千八百年前にユダヤの地に歩みしが至るところ  
 天眞の和氣四方に溢れ昔し人の靈魂をしてわれを知ら  
 ざらしめしが今尙ほすべて余儕の心情によりて多の美は  
 一き調子を添へ益響き益澄みて人心を調和誘導せり  
 嗚呼ナザレのイエスは余儕の最も神聖なる標式なるかな  
 人類の思想は未だ曾て之より高きに登らざるなり年久し  
 ふして愈壯んなる無限の性行の標式たるものは常に吾人  
 の講究を促し更めて彰明よするを要すと  
 バクルン侯は明言せることに曰く曾て人にして神となり  
 神よして人たりしことありしならばイエスキリストは即

はち此の兩者を兼ねたりとアレクセイナルク曰く此の  
 遊星の地を踏めるものうちにて最も完全なるものを愛  
 愁の人と名くとトマス、デツケルの語に曾て世に現はれた  
 る人の最も善きものハ受難者にして溫柔忍耐謙遜靜安れ  
 精神を有するものなりき世に活動せるものうちにて最  
 初の眞正なる紳士は即ち此の人非ずして誰れぞやと  
 チヤ、ルステッキンスの遺言狀に書き載せたる語ハ永く  
 信徒のこゝろに感動を與ふべきものなり我れ吾が主にし  
 てわれらの救者イエスキリストに憑り吾が靈魂を神に托  
 ぬ我切にわが愛するところの子女に勸む身と謙り新約の  
 教訓に依りてれのれを修むべしと



デツキンスまたクリスマスの事と云る文を記せり其の語能く吾人を感動せしむるに足り且つ妙に救者の性行實歴を包含し得たるものといふも可なりとす曰く聴けや俗人樂を奏して吾が少き睡眠を破れりわれクリスマスの音樂を聴くに方りクリスマスの樹間に現れ見ゆるもの許多あるを覺ゆかれらハ殊に一層他のもののよりも目立ち遙かに之に離れて吾が小き寢床の周邊に集れり唯看るひとりの天使山邊に在りし牧人に物語りし數名の旅客空を向上つと星の行方を慕ひ生れてまた程も無き嬰兒槽のうち居りひとりの少年いと廣かなる聖殿に坐して儼かなる人ど打ち語ひ威儀重く相貌温良美麗なる人手を取りて死した

る少女を回生させまた城門のほとりよて一婦婦の女を棺榔れうちより生命を回らしめ一群の人々の坐し居たる家の屋背よ登り繩をもて病客を提げ下ろせり其の人湖上にて暴風に遭ひ水を踏んで船に至る或るときは海邊にありて衆多の人々に救へ或るときはまた膝のうへにも其の周圍にも許多の子女等を置き時ありては盲人の眼を開き聳者に聴ることを得させ病客を癒し跛者を健かにし無智なるものに知識を與ふ終に戎具着たる兵卒に護備れつと十字架上に死し密雪起り立ちて地太く震へ其の凄き中ふ耳下に響るた一つの聲あり曰く彼等を救したまへ彼等はその爲すところを知らざればなりと



抑此らの言辭は如何なる意義を徴するものなるや余等ハ之を究了せずして讀者の判決に任せんと欲す之より注目トアメリカの疑學ヲ黜せん蓋シアメリカの疑學は他邦國のものと同じく忌み憚かる所なく殆ど傍若無人に似たりれども甚だ自ら創立せる論趣又乏しきものなりトすトマス・ペインは英國に生れフランスにて數年間修業ト合衆國獨立亂の時に大いに盡力して功あり此の人極めて過劇なる不信説を唱へ罵詈譏詛至らざるとあるなし然れども時に心神の清みて正きよあたりては此の人といへどもイエスの性行に感激し其の眞實なる品性を侮辱することなど露許もなかりき

ペイン曾てクリスト教訓卓絶なるを論じて曰くクリストの口に教へ身に行ひたる道徳は最も仁愛なる種類に屬せり數年前孔子及びグリシヤの哲學士輩の之を説きまた其れ後に至り許多の善人ありて世々之を教へたれど未だクリストに過ぐるものあるを見ずペンシヤミンフランクリンが神學上の見解は何れの點にありしやペイン程明亮ならずといへどもまた幾分か知ることを得難きにあらず氏が一千七百九十年三月九日を以てイエール大學の教頭スミイルスに贈れる書翰にナザレのイエスを論じたる語あり曰く其の後世に傳へたる道徳及び宗教上の説ハ世々出いもの及び恐らくは是より世に



出んとするもの、うちにて最も善良なるものなり。遮莫我未だ之を深く研究せざるが故に之に關し妄りに臆斷を下すことを好まざれど英國ふある現今の分離家と、もに其の神たることに付きては幾許か疑と抱き居れり我之に付きて程なく確實なる知識を得るに至らんとす

大統領ジエツフェルソンの承認ハ氏が持前の自重謹慎なる性質を見せり其の最も主眼とするところはイエスが道徳上の教説に在りとす

氏がワシントン府において一千八百〇三年四月九日と以て博士ブリーストリに書を送り同人が著せるソクラテ及イエス比較論と評説せる文中左の語あり曰く

然れども今日まで遺れるイエスキリスト行實の一斑を以て之を觀れば實に卓然たる工人にして其の道德の説ハ最も仁愛なるものにして高妙を極め今日まで世に在りしうちにて最も他に超絶し其の完全なるに至りては古への哲學者一人として之に及ぶべからずクリストの性行はよび教説ハ自ら其の靈なる門徒と稱へ一己の得失上より其の言行を牽強附會せるものどもより最も大いなる妨害を被ふり往々にして思慮淺き人民の厭惡するところとなり惜むべし此の最も無罪慈悲雄辨及び高妙なる品性等すべて絶倫の人として或ひハ權詐の汚名を取らしむることとはなりぬ云々



博士チャニングは一千八百十五年以降は名と非三一論者のうち位置合衆國に在いて之が首領と仰がれし人なり然れども未だ曾てクリストと以て單ふ人性のみと信じたることなくまいて之を主張したることなし  
 一千八百四十一年となりても尙ほ同氏の論に曰く我プリ  
 ーストリ及びベルンヤムの説と感想を同じうするところ  
 少し我は務めて更に明白なる光輝を求むるものとはか  
 共伍を爲すなりと叫ばざるを得ざるなり加ふるよイエ  
 スは曾て神の子世に救者なりしのみならず今もなほ依然  
 として存在し曾て地ふ在りしとき常に望める彼の天よ入  
 れりイエスは即ち彼所よ生きて治むることを爲せり我明

白静和なる信仰を以て彼が榮光の状態に在るを見且遠か  
 らず面と接して相視ることあるハ確く信ずるところなり  
 教頭ヒル曰く殊に今日の宗教思想ハ夫子の聲によりて左  
 右せらるるものなりクリストの能く神を見ることの明瞭  
 なる古今獨歩にして其の智識の完全確實なるハすべて他  
 の教師が得て及ぶところにあらざるなり  
 教頭博士エリオット曰くクリストの高き何れの度もある  
 か之を如何やうに確定するもまた吾人此のれの本性と知  
 らざるが如くクリストの本性をも知らざるにせよ其の神  
 と人との間に關して特別の地位を占め神の榮光及び世の救  
 ため此のれの特有せる事業を爲すに適しとるハ言語と



行狀ぎやうじやうは由りて十分明白なりとす  
 博士はかせピーボデー曰く汝如何なる手段を以てするもイエスを引きおろして通常人類の平面へいめんに立ち當代の人と列を全うし或ひは萬世に豪傑と席を共ともふせしむるを得べからず  
 クリストの性格は世にその品類なく第一世紀に於るものとく第十九世紀ふたいても大いに見ゆ人体に寓りしものにて其の靈と以て最も力あるものとす其の教説ハすべ  
 て吾が今日の文明進歩仁愛の基となれり凡そ人生社會貿易政治等にかまはり總て改良を加へたる理學の定説にしてクリストの福音より出でずまた其の口より出でたる語に移し且つ之を移して更さらに妙ならざるものなし

クリストは今日も尚ほ別種の人なり然れど之と種族と同一すべきものも他たに有るよあらず實に獨り自らして一種族を爲せり世には之が比倫なきのみならず之に近寄るべき者もあらざるべしイエスは類似たる衆星のうちにて光輝の一際目立ちたるものにあらず實に獨り太陽の地位を專有するものにて其の光線は遭へば衆星盡く色を失ふと  
 また全博士は家族の喪にあたりクリストの事を言へる語に願ねがふ美はよくして感深り曰くクリストを客として善く待遇し友侶として善く親める家族のみひとり其の結合の死に妨げられざる覺ゆべしわれらはクリストに在りて互ひふいつなればこそ永遠に一なるを知るべしラザルを復たび



其の姉妹に與へしものとみ獨り死も別れも無きところに  
 て我らと互ひに與ふるを得せしむるなり  
 シエー・ムスフリーマンクラーク(十大宗教と題せる書の著  
 者なり該書中火教の部は藝に或る人の譯述せしところな  
 り)曰くシリストは實に人類に超えたるものにてモウセエ  
 リヤも有せざるどころすべて大いなる宗教家の有せざる  
 ところを所有り是れ特別なる誕生ふより初のアダムか立  
 ちむところふ立ちて遺傳の惡を免れ神の像にて造られた  
 るものならん斯くて聖靈は量なく之に與へられたり  
 斯の如くなるを以て人の曾てイエスを神と稱へまた今な  
 ほ然いふも豈怪しとするは足らんや實に神の事を好ま

ざるなりと次よ掲ぐるが若きは以てチャニンが所見  
 の在るところを示すに足らん曰く  
 我れ汝に問はんイエスの性格ハ歴史のうへにおいて最も  
 非常なることにて全く人性を以て説明しがたきに  
 あらずや我のクリストを崇むるの深きは實に神を仰ぐの  
 崇敬に次ぐのみイエスの性格は實在にして神の愛子に屬  
 したるの愛子たるを顯すものなりイエスの行實は歴史  
 演劇のごときにあらずクリストは今なは神の子にして世  
 の救主たるなり  
 我左のことに明言せんと欲す我時に慣習の魔睡薬を免れ  
 次のごとき聖書の明文を十分に會得するに至れを古今い



まだ曾て人類の語を以て語らざるものの音容に接するの  
 想なきを得ず曰く父の家には第宅にほし我汝らのた  
 めに所を備に往く(約翰十四ノ二)と我此らの言のうち  
 れたる宏大なることを覺えて畏服せらる此の宏大なるを  
 以てクリストが行へる奇跡の證據と併せ考ふるときは百  
 夫長どもも實に此れ神の子充ち足れることば体をとり  
 て其のうちに寓れり而してこのうちに住める此の靈ハク  
 リストの言ひも一行ひもせよとこれのれを發表せり  
 左れをイエスの語れるは恰かも神の語れるが如く其の事  
 を行へるは宛然神の之を爲すを見しに異ならず是れわれ  
 らに取ては皆神靈なる發表となれるものなりイエス罪

人よ向ひて往け汝の罪赦されたりといふとき此れ己れ  
 一己の慈悲のみならずまた神の赦罪を發表すことなり……  
 クリストハ見るべからざる神の像萬物の冢子なりと  
 寛容なる哲學上の文學ふおいてラルフウォールドウエモル  
 フンを以て代表者たらしむるを得べし或る人エメルソン  
 が著書なる「リプレゼンテ、ブメン」のうちに宗教上の思想を  
 解示するの例としてスウィナムベルグを用ひイエスを  
 取らざるを惟し其の疑を之に質しけるに答へて曰くク  
 リストの性格を論ぜんには更よ勁健なる天稟を要す  
 此の説ハ卓絶なる畫工レヲナルドダウイレンの故事に似  
 たりレヲナルド曾て主の晩餐の圖を作りしが十二人の像



と画きてのち夫子の圖に至りかのれの冕を脱ぎ功妙なる筆を投げたりといふ

エメルソンと詩人ホイットテオルとの間に或る時次の如き問答ありしと著者に話し聞せたるものあり

エメルソン曰く完備の人未だ曾て來らず後ち將又來らんとす

ホイットテオル曰く友人エメルソンよイエスハ世に現出せる最も完全なる人なり是れ汝の承認するところなるべし

エメルソン答ふ然り我足下の言を諾す

ホイットテオル曰く吾人はクリストの行實が世に示せる模範に未だ及びも付かざるなり是れ亦足下の許すところなり

らん

エメルソン曰く然り是も亦一諾を與へざるを得ざるべし

ホイットテオル問ふて曰く然らば足下は更に完備せるもの出るまでは之を以て完備なる行實なりと見做すべき筈に非ずやと

エメルソンここに於て其の清肅なる碧の眼を以てはるかに空間を向上して少頃は默然として辭もあかりける

植物學比泰斗教授エーサ、グレイの著せる學術及び宗教と題せる書は何所の教會の條例に拘束せられざるものなる

が書中記載して曰く

宗教上の發育中稍古き程度につきては随分異論もあるな



らんが人類となりて生れ神人の兩性を合して彰せる彼の  
神聖なる人の降世に至り、黙示の大成せることまた吾人よ  
取りて、實に其の要旨之ふ在りて存し、クリスト教も結局  
此の顯現に外ならずといふに至りては皆同意一決すると  
ころなるべし  
其の他、歐米諸國の學者ふして古へのガリレオ、ケプレル、ベ  
ーコン、及びニュートンの若き物理の大家ととも、ふグレイトに  
劣らぬ較著なる言を吐露し、イエスキリストの名をすべて  
他のものの上に置けるもの頗る多し  
極端なる有神過激家のうちよ議論の之れに及べるものま  
た枚舉に遑あらざるべし、僅かに代表者ともなるべきもろ

くの言詞を擧ぐるに曰く

イエスより大なるもの未だ曾て有ざるところなり、イエス  
は宇内の大勢趨向を統御し、人類のためよ永遠なる教法を  
創立したるものなり、其の人物の倫を絶し、其の規模や天啓  
の創起に係る、其の天才の貫通無比にして、其の人と爲り未  
曾有の創起と勢力とを有するものなり、クリストは最も高  
き歴史上の教師、人類の廣大なる模範、完備の理想なり、靈な  
る英雄の首坐を占め、群生の最も玉たるの威容ある靈魂、天  
眞なる智慧の至善、至眞なる標式なり、其徳巍然として天を  
衝き、其の心清潔にして、全体の靈の機關となり、人物の大い  
なるに至りては、其の傳を作れるもの、の筆力も十分に之を



表をこと能ず、萬世に匹敵無く其の榮光は無究に現されん、  
 イエスは靈を主とせる説を最も善く表したるものに靈な  
 る思想の最も豊かなるエダヤの生育物なり云々  
 此等不信徒のいふところはクリスト信徒の言と語一にし  
 て義大いに異なるどころあれども彼らがクリストを以て  
 空前空後なりじと悟りたることは見得て余りありと云ふ  
 べし  
 博士セラドウルパーヨルを以て此の種類の人を代表せし  
 め其の言を稍長く引用するも敢て不可なりと抗爭するも  
 のはなかるべしパーヨル曾てイエスのことを論じて曰く  
 クリスト光の如く美しく天の如く高く神の如く眞實なる

教を宣へ哲學者詩人預言者學士等のうへへ凌駕す然れど  
 もナザレは哲學を以て大氣充塞せるアブレンスに非ず其れ  
 村にハ哲士の林高論の壇場もなくまた預言者の學校もな  
 かりき唯此の少年の心中に神は在せるなり  
 神の靈に感じて鼓動せる最も強き心は其の胸間に如何な  
 る作用を爲せるや其れ譴責慰撫教誨勸諭約束冀望の語は  
 淵まんとする草を呼び起す夏の露のごとくふ靈魂を鼓動  
 せり其の箴言と教訓とは實に何等の深遠なる教訓と含蓄  
 せるやエダヤ人の日常の事を以て充ちたる其の卑近な  
 る教説に含める智慧ハ如何許りぞや其の祈禱行爲慈悲同  
 感信任のうちにあらはれて掩ふべからざる靈魂の深く神



妙なること如何許ぞや  
 之を試るよ他の師を試るがごとくせよ要するに他の師は  
 其の言を吐けばすなわち預ねて慰藉を渴望せるも其數人  
 ありて其の新説よ從ふ然ふして斯く從がふものハ敢て其  
 の智惠師よ勝るものにあらず反りて遙かに卑きものなれ  
 ば頓て師の右に出るを常とす哲學宗教等に於いて一派創  
 立せるものえ皆斯のごとき運又遭遇せり例之吾人は甚だ  
 賤きものなれど實にルウテルソクラテのいまだ見ざるど  
 ころを見るにあらずや人類の潮イエスに於いて高く上れ  
 るより以來己よ星霜を閱する千八百に餘れども如何なる  
 人如何なる宗派如何なる教會が能くクリストの思想を十

分に吾がものとし其の方法を悟りて之を實際に應用して  
 以て其の右よ出ることを得たりや世界は嘆息の音を以て  
 之に答ふるの外なかるべし  
 われらの考るところにはイエスは四福音記者か筆に任せ  
 ぬ程大いなるものなり我等はユタヤもしくは異邦なる歸  
 教者の觀察を以て之を計らずクリスト死後の三世紀及び  
 其より後絶えず輝ける其の光と以て之を計るべし  
 イエスの世に現はせる影を以て之を計らんとするか否其  
 の世に放てる光を以て之を計るべし論者或ひは斯の如き  
 人實に世にありしならずといはんと欲するが試みたプレ  
 トニウトンを無きものと假想せよ然れども其の事を成



し其の思想を案出せるもの誰がや必らずや一のニウト  
ンを作り出さんには一のニウトンと要すべき等なり然ら  
ば何人能くイエスを製作し得たりや是れ一のイエスに  
あらずんば決して能せざる所なり  
實にクリストのいままもなほ生命なりけり道なりき此や  
天つまことの光なり此れやまことの生命なり此れやま  
との道なりき深くものぢみ厚くも祈るものどもは其の與  
へぬる光と生命道を使ふ忍なり之を使ひ忍ぶなりと  
合衆國に在いて大いに純粹なる基督教に背ける宗派の巨  
魁と仰がれたるパーコルの所論斯の若し  
われら已よ多くの人々の所見を引証せり之より亦更に何

をか言はん何となれば此等は皆世の深遠なる博士にして  
思想の最も明晰なるものなり此人々異口同音にクリスト  
の世界の歴史上今日まで人に知られたるなかの最も威儼  
あるものなりとの偏頗無く且禁へんと欲して禁へがたき  
感覺を吐露せり彼等のみなクリストの智慧深くして思想  
甚だ強く眞實にして至誠と旨とせるものなれば其言ふと  
ころ必らず信すべきことなるを認めたるなりクリスト曰  
く(其言の訛傳にあらざることを明らかあり)我と父との一な  
り(約翰傳十ノ三十)我を見しものは父を見しあり(全十四ノ  
九)イエスの最も親密なる門徒はその意を承け記し曰く元  
始よ言あり言は神ともにあり言はずなはち神なりこの



言は元始に神ともよありき萬の物之に由りて造らる造られたるものにひとつとして之に由らで造られしはなし  
(全一ノ一以下三)

クリスト紀元の始に世界に降れる此の至誠賢明強大にして驚べきものと自から提出したる証據は單獨の力を以て正當純粹なる道を奉ぜるクリスト教徒の所見を辨証するに堪たり議者或は曰く此れ奇跡に渉るを以て遽に信ぜべからず然り左いふときは神も奇跡なり見へざる世界及び未來の生命も奇跡なり故に縱令奇跡なればとて斯の若く証跡興論の分明なるよれいてハクリストは神ともにありて一なること其の贖罪は人類の救の基なること及び萬

民の崇敬禮拜を受くべきものなることにつぎ世々の信仰を得ぐること能はざるべし凡のものに生命を與へすべての人の心は真理の啓迪と與ふる神の靈ハ何故に世の他のものと異なりて特別の方法を用おいてクリストの生命と活動すことを得べからずとするや人類は十分に此の秘義を悟る能はずといへども尙ほ古來教會の信奉せる申告文を信ずることを得べく又實に今之を信じ後も之を信じて左のごとく言ふならん曰く我は父の言にしてとりも直さず永久の神なる子を信ず即ち父と一体にして福せられたる處女の胎内よて人性を取りたり斯て二つの全く且つ備れる性即ち神人の兩性合して一のペルソナとなりて分離



るべからず是れ眞まことの神かみにしてまた眞まことの人ひとなる一ひたしのクリス  
トなり

百十

諸大家基督論終

明治廿一年四月五日出版  
同年三月廿三日印刷

著作者兼  
發行者

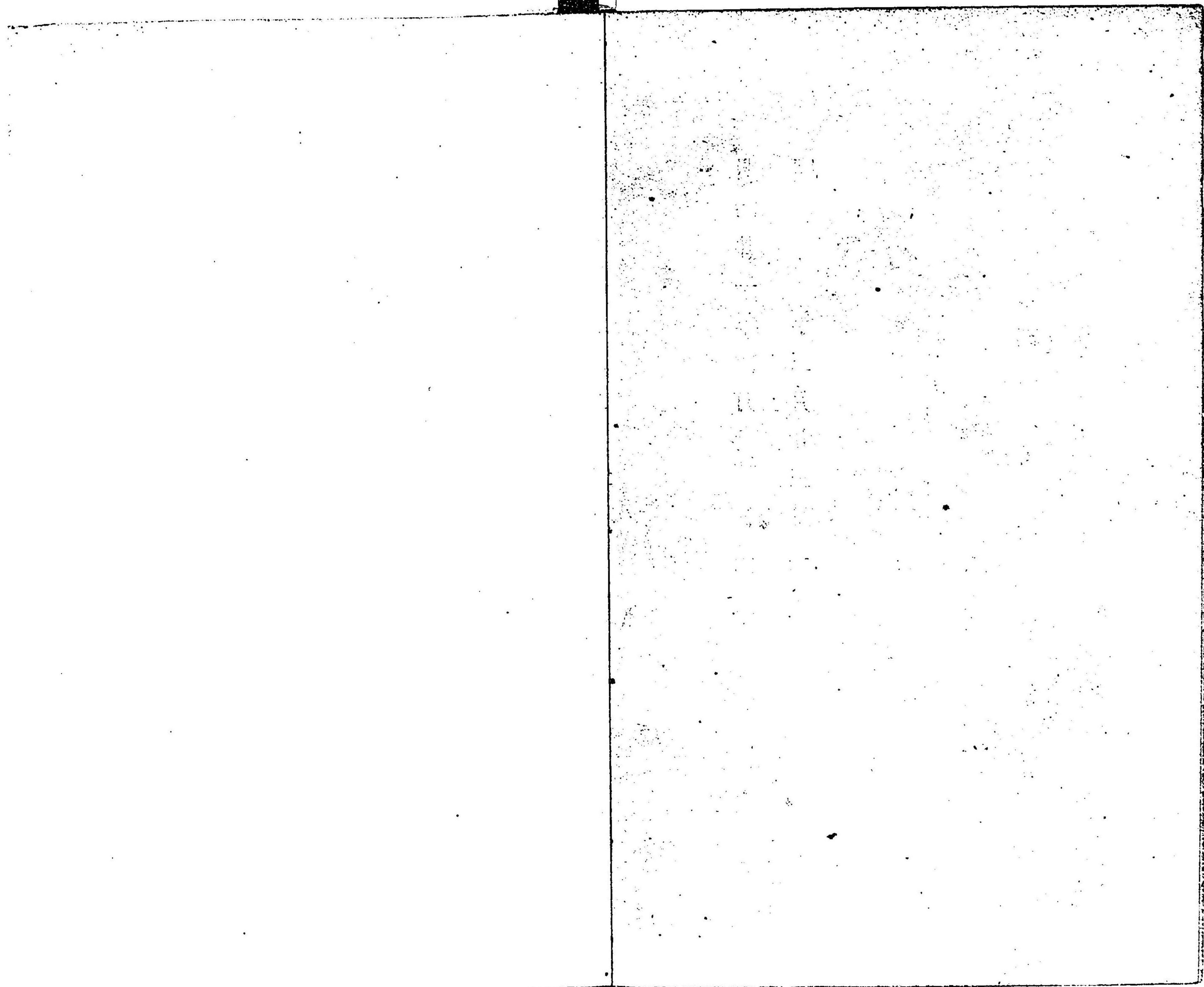
東京麹町區四番町三番地  
植村正久

全日本橋區兜町一番地  
製紙分社

印刷者

廣瀬安七







23  
195



